

令和5年4月1日

各位

小平市立小平第二中学校
校長 吉田 功

令和5年度 学校経営方針

1 はじめに

小平市立小平第二中学校は、創立67年目を迎えました。開校以来、地域の皆様のご協力と多くの職員の教育に捧げる情熱と献身的な取り組みにより多数の生徒の成長を育み、さらに、家庭・地域社会との連携、協力により地域の中に生きる学校として充実、発展し、望ましい校風が培われています。

本校は、令和元年度に小平市教育委員会から小・中連携型コミュニティ・スクールの指定を小平第十三小学校と共に受けました。その後、第一期が終了したところで小平第十三小学校と分離し、今年度は、独立後の第二期2年目に当たります。これまでの成果と課題を踏まえ、関係小学校、地域社会、保護者とさらに連携・協力し、今までの取組を充実・発展させ本校の独自性を出していきます。

本校着任2年目を迎え、これまでの学校経営を踏襲しつつ、経営方針の見直しを行いました。

2 学校経営の基本的な理念

学校経営の目的は、教育目標の達成です。「教育は人なり」と言われるように、まずは、一人の人間として、生徒や保護者、地域に対して「誠実」であることが大切です。その上で、学校の教育活動の成果をあげるためには、全教職員の組織を通しての協力が必要であり、何をするにも「人の和を図る」ことが大切です。教育はチーム力であり、学校が安定し、まとまって動くためには人間関係の円滑な運営に優るものではありません。同じ職場で巡り会ったこの出会いを大切に、わがままや自己本位な考えを排し、「利他」の心で明るく楽しい、しかも意欲と活気に満ちた学校づくりに取り組んでいきます。

それとともに学校経営の根幹にあるものは、「現状維持は後退」という考え方です。何かに取り組もうとするときに、課題やできない理由を探すのではなく、できる方法を考えることが大切です。コロナ禍によって、社会の変化が一段と激しくなる中、新しいこと、未知なことにも積極的に挑戦する姿勢を大切にしていきます。

以上から、本校の校訓である「誠実」を胸に刻み、すべての生徒たちのために教職員の「和」を大切にしながら日々の職務に取り組み、生徒・保護者・地域から信頼される学校をつくりまします。そのために、「時を守り、場を清め、礼をただす」「気付き、考え、行動する、やり抜く」を行動原則とし、職務に当たります。

3 本校の教育目標・目指す生徒像

- 自ら考え、正しく判断し、積極的に実践する人間
- 明るく健康で、情操の豊かな人間
- 社会の一員として、協力し、向上に努める人間
- 相手の人格や立場を尊重する人間

4 目指す学校像・教師像

- (1) 上級生が下級生のお手本になる学校。
 - (2) 面倒見が良く、心の熱い教員のいる学校。
 - (3) 落ち着いており、生徒・保護者・地域から信頼される学校。
- 以上を「二中ブランド」として位置付け、実現に向け努力していく。

5 教育目標を達成するための4つの柱と具体的方針

< 4つの柱 >

- (1) 生徒のウェルビーイングを高める
- (2) 生徒の学ぶ意欲や学力を向上させる
- (3) 家庭や地域との連携を強化する
- (4) 教職員一人一人が高い志をもち、組織力を高める

(1) 生徒のウェルビーイングを高める

ウェルビーイングとは、身体的・精神的・社会的によい状態を指す言葉です。文部科学省は、次期教育振興基本計画で「日本型ウェルビーイング」を大きな柱としています。日本型ウェルビーイングとは、「協調的な幸福感」を重視する考え方で、自分だけでなく周囲の人や社会にも貢献することが重要だと考えています。そこで、第1の柱を「生徒のウェルビーイングを高める」にしました。具体的には、以下のことに取り組みます。

- ①規則正しい生活リズムづくりと食育の推進
- ②いじめ防止と「生命（いのち）の安全教育」の実践
- ③学級を基盤とした係・委員会、班活動の充実
- ④学校行事（RIKUTAI、合唱コンクール、校外学習、宿泊行事）を通じた生徒の自主性の育成
- ⑤「WEBQU(ウェブキューユー)」や各種アンケートを通じた生徒理解と個に応じた対応の実施
- ⑥キャリアパスポートを活用した目標設定と自己評価活動の実施
- ⑦部活動を通じた他者との交流、自己技術の向上、学習との両立
- ⑧「eboard(イーボード)」、個別教室、あゆみ教室の重層的な校内支援の実施

(2) 生徒の学ぶ意欲や学力を向上させる

学校生活の中心は「授業」です。教員は常に授業改善に取り組みながら授業を充実させ、生徒の学ぶ意欲や学力を向上させることが第一の職務です。充実した授業は、生徒の学校生活の充実度を高め、延いては、生徒のウェルビーイングを高めることにもつながります。そこで、第2の柱を「生徒の学ぶ意欲や学力を向上させる」にしました。具体的には、以下のことに取り組みます。

- ①朝読書の実施・継続
- ②二中スタンダード（UD）に基づく、わかる授業づくり
- ③主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善
- ④考える道徳の実践
- ⑤各種講演会・職場体験の実施、二中版「7つの習慣」づくりと推進を通してのキャリア教育の充実
- ⑥ICT機器や学習者用端末の積極的活用、端末の家庭への持ち帰り

- ⑦「monoxer(モノグサ)」による家庭学習の支援（全学年）
- ⑧「フォーサイト手帳アプリ」によるスケジュール管理の支援（3学年）
- ⑨生徒の主体性を高める校内研究の実施
- ⑩上級生がお手本になる「二中ブランド」の継承

（３）家庭や地域との連携を強化する

学校は、家庭や地域との連携で成り立っています。この関係が良好に保たれているとき、学校は初めて安定的に運営することができます。そのためには、家庭や地域から何かをしてもらうという受け身・消極的な姿勢ではなく、自らが積極的に家庭や地域に対して学校を開いていく姿勢が大切になります。そこで、第３の柱を「家庭や地域との連携を強化する」にしました。具体的には、以下のことに取り組みます。

- ①学校公開や道徳授業地区公開講座の実施
- ②保護者会及び年２回三者面談の実施
- ③各種便り、ホームページ、メールによる情報発信
- ④地域人材・学校支援コーディネーターとの協働
- ⑤新入生体験入学・部活動体験の見直しによる小・中連携の取組の改善
- ⑥「副籍」による特別支援学校との交流実施
- ⑦学校経営協議会の充実と学校評価に基づく学校改善
- ⑧避難所開設準備委員会との避難訓練の実施
- ⑨青少対や地域イベントへの生徒の協力

（４）教職員一人一人が高い志をもち、組織力を高める

学校は、教員を始め、幅広い職種の多くの職員の協働で成り立っています。とりわけ教員は、直接生徒を指導する立場にあるだけに、高い人格と質の高い指導力が求められます。「研修」という言葉は、「研究」と「修養」が大本になっているとおり、これを担保していくためには、教職員一人一人が高い志をもち自らを高めるとともに、お互いが協力し合って組織力を高めていくことが大切です。そこで、第４の柱を「教職員一人一人が高い志をもち、組織力を高める」にしました。具体的には、以下のことに取り組みます。

- ①授業研修・授業公開週間による授業力向上
- ②同僚性に基づく教員間の支え合いによる人材育成
- ③副校長、主幹教諭、主任教諭らによる組織的なOJTの実施
- ④校内研修と各種研修会・研究会への積極的参加
- ⑤職務の質の向上と効率化への意識の高揚、働き方改革の推進
- ⑥「そうじの日」の取組、職員室・机上の整理整頓による学習・執務環境の整備
- ⑦服務事故防止研修、毎月のチェックによる服務事故の防止
- ⑧校内予算の効率的・効果的な執行、光熱費・消耗品費の節減、私費会計の適切な運用と会計事故の防止

６ おわりに

本校の教育目標を実現するために、上記の経営方針のもとでの取組が有効であったかを学校評価、授業アンケート、学校公開時のアンケート調査等を用いて、その達成の可否を広く地域・保護者に問い、達成度の低い項目については迅速に改善を図ります。

以 上